能登被災地支援活動報告

～活動した内容と考察・今後の課題について～

発表者：佐藤文哉

施設紹介

施設紹介

被災地支援に参加したきっかけ

●被災地支援に参加したい気持ちがあった

●晃の園が自然災害の被害にあった

●能登半島地震が発生した

火災の被害にあわれた地域

津波被害にあわれた地域

支援先の施設概要(生活場所・人員状況)

- 元の施設は被災し、避難先の施設で生活している
- 利用者　約２０人

支援先の施設概要(生活場所・人員状況)

- 職員体制

震災後から２か月間　４人体制での
２４時間勤務

支援開始後から　日勤　現地職員５人+支援者３人
新しい施設完成まで　夜勤　現地職員２人+支援者１人

[redacted]
察官立寄所
閉めましょう!!
※虫が入ります!!
定礎

支援内容(日勤帯)

８時～　　支援開始・申し送り・バイタル測定

１０時～　体操・排泄介助・間食提供など

１１時～　昼食

１３時～　トイレ誘導

１４時～　レクリエーション、利用者様とのコミュニケーションなど

１６時～　夜勤者との申し送り

１７時～　夕食

１８時～　支援終了

支援内容(夜勤帯)

１６時～　勤務開始・申し送り

１７時～　夕食

１８時～　口腔ケア・就寝準備

１９時～　見守り・トイレ対応

５時～　起床準備

６時～　コミュニケーション

７時～　朝食

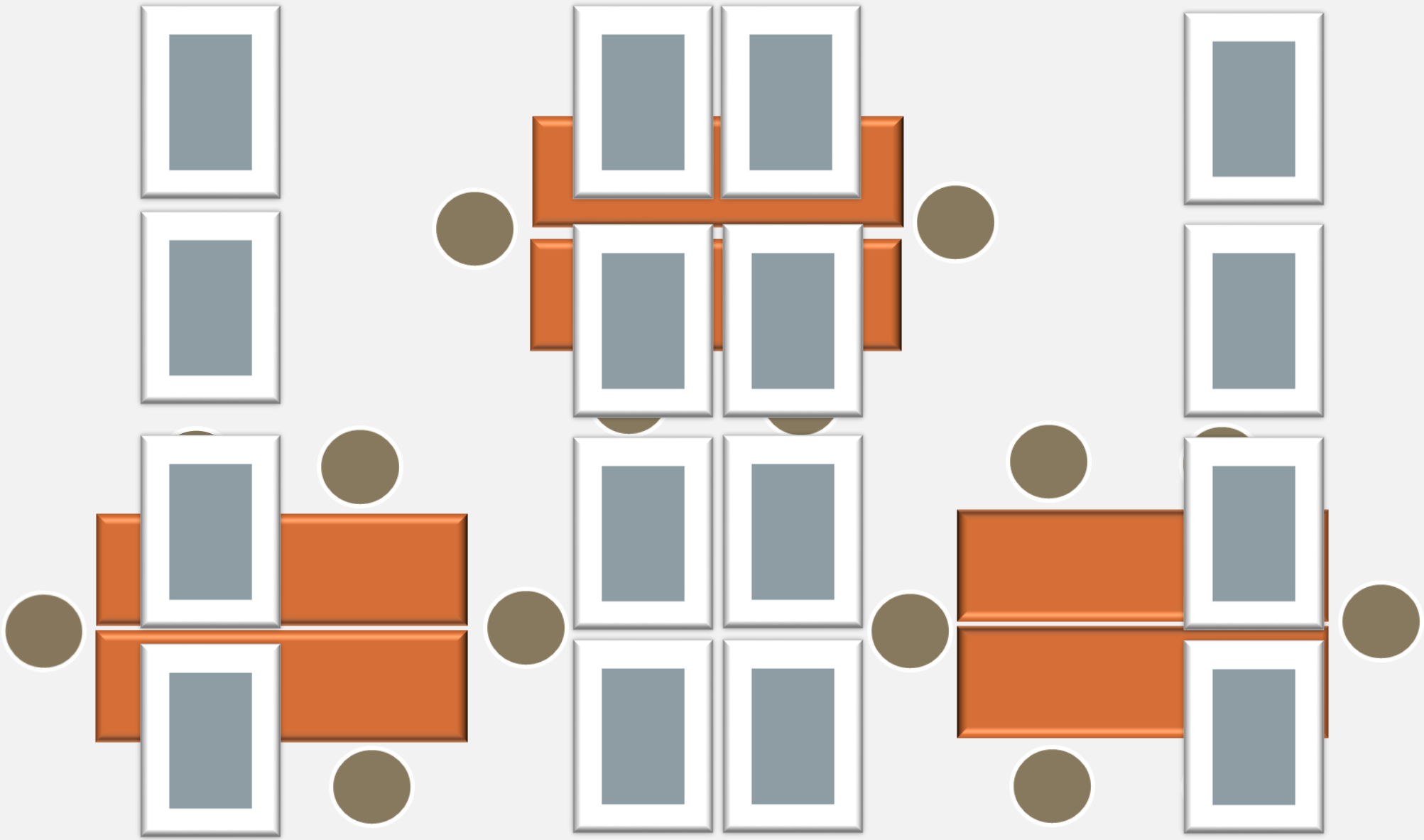
７時半～　コミュニケーション・見守り・トイレ対応

８時～　申し送り

９時～　勤務終了

共用ホール

夜間



考察と問題

- 比較的自立度の高い利用者の方が多い

→椅子に座って過ごされる時間が増えた

ADL低下のリスク

出来ることはなるべく自分でしていただく

↓

自立支援の意識が施設の中で統一されていた

考察と問題

- 現地の職員自身も被災・慣れない環境で業務

→現地職員は外部からの支援者に業務を細かく教える時間は無い

- 職員が必要としている支援を見極める力
- 情報収集+介助を短期間の間に行う

→はじめての施設ですぐに戦力になるのは難しいのが現状

考察と問題

支援者間での申し送り

支援内容、利用者様の名前と座席位置、
利用者様の特徴、その他注意事項や変更点など

名前付きの顔写真、座席表、マットレス・ベッドの位置などのが記載されたシート

施設が被災した際に必要なこと

①支援者が支援に入りやすい体制

②自立支援の意識をより強く持つ

①支援者が支援に入りやすい体制

- 職員自身も被災し、人員も不足し、各地で大きな被害が出てインフラの復興にも時間がかかっている

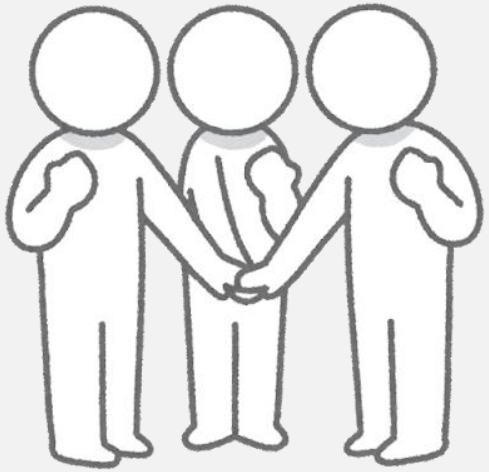
→命を預かっている業種であるため、業務を止めることはできない

↓

支援による人手の大切さを実感

①支援者が支援に入りやすい体制

支援者がすぐに戦力になることは
難しい現状があった



💡支援者間での申し送り
💡利用者の情報が確認できる資料

①支援者が支援に入りやすい体制

- 『２４Hシート』や『アセスメントシート』を常に最新のものにしておく
- “わかりにくい表現”になっていないか？
- 「現地職員だからわかっている！」ではなく…

→**誰が見ても利用者のことがわかるような環境づくり**を意識することが必要

施設が被災した際に必要なこと

①支援者が支援に入りやすい体制

②自立支援の意識をより強く持つ

②自立支援の意識を強く持つ

イレギュラーな状況下であっても

どこで生活をしていてもできることに変化はない

過剰に手伝うのではなく、利用者様に必要な支援を行う

↓

自立支援の意識が必要

②自立支援の意識を強く持つ

ADLの低下を防ぐことが課題

→避難所生活から戻った際にできるだけ今まで通りの暮らしができるように

自立支援の意識を強く持つ

最後に

ご清聴ありがとうございました